

第1回UXプロジェクト計画策定会議 議事概要

【日 時】令和3年（2021年）7月26日（月）15時00分～17時00分

【場 所】ホテル熊本テルサ 1階 テルサルーム

【出席者（敬称略）】

<委 員>

池野 文昭 委員（スタンフォード大学 研究者）※

川畑 健二 委員（九州電力株式会社 執行役員熊本支店長）

慶児 幸秀 委員（熊本県企業誘致連絡協議会 会長）

後藤 芳一 委員（一般財団法人機械振興協会 副会長）

新原 昇平 委員（熊本国際空港株式会社 代表取締役社長）

田中 稔彦 委員（一般社団法人熊本県工業連合会 代表理事会長）

富澤 一仁 委員（国立大学法人熊本大学 理事・副学長）

富山 孝治 委員（株式会社システムフォレスト 代表取締役）

吉本 陽子 委員（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員）※

木村 敬 委員／座長（熊本県副知事）

※池野委員及び吉本委員はオンラインによるリモート参加

<事務局（熊本県）>

内藤 美恵（商工労働部産業振興局長）

大下 慶（商工労働部産業振興局産業支援課長） ほか

【議事要旨】

1. 開会

○事務局（熊本県）

- ・ただいまから、「第1回UXプロジェクト計画策定会議」を開催する。ご多忙のところご出席いただき感謝。
- ・はじめに、資料の確認をさせていただく。オンライン参加の皆様には画面共有にて進める。

[資料確認]

○事務局（熊本県）

- ・議事に先立ち、熊本県副知事の木村敬よりご挨拶申し上げる。

○熊本県木村副知事

- ・待ちに待った日がやってきた。県庁で産業政策に携わった人間として、新型コロナウイルス感染症や昨年の7月豪雨などの気候変動を前に、どのようにこれからの時代の熊本を切り開いていくかという中で、今般、県の新産業施策である、通称「UXプロジェクト」の計画策定会議の委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。また、国内外からオンラインで

も参加いただき感謝申し上げます。

- ・熊本県は変革の時期を迎えている。これまでの経済界の各取り組みや大学での研究をもとに、阿蘇くまもと空港地域を拠点として、熊本の強みである、医療、介護、健康、食、ビューティー、スマート農業などのライフサイエンス分野を中心に、熊本の未来を切り開く新しい産業をつくる、というねらい、意気込みが本プロジェクトの原点にある。
- ・そのためには、県内外から幅広く、人、モノ、技術や情報が集まり、有機的に結びついていく、新たな知の集積を図っていききたい。
- ・これらの具体化に向けて、昨年度、有識者の検討委員会を開催し、基本構想を策定したところだが、今年度はより具体的な施策を進めていくにあたっての基本計画、実施計画を策定するための会議を設置させていただいた次第。本日は基本構想の中で特に重要なものについて具体化する基本計画の素案をお示しする。
- ・各委員にはそれぞれの専門的知見やご経験から、熊本の産業の未来、そしてUXプロジェクトについて、忌憚のないご意見を賜りたい。

2. 計画策定会議の設置について

○事務局（熊本県）

- ・資料「UXプロジェクト計画策定会議設置要項」に基づき、説明。

3. 委員紹介

○事務局（熊本県）

- ・時間の都合上、出席者名簿に沿って事務局からご紹介申し上げます。
- ・本日は委員全員にご出席いただいている。

[委員紹介]

○事務局（熊本県）

- ・ここで、本会議の座長を選出したい。
- ・設置要項第3条により、「座長は、委員の互選により選出する」と規定されているが、事務局から提案させていただきたいが、よろしいか。

○一同

- ・異議なし。

○事務局（熊本県）

- ・それでは、座長を木村委員にお願いしたいが、よろしいか。

○一同

- ・異議なし。

4. 議事

○木村座長

- ・早速議事に入りたい。
- ・皆様から忌憚のないご意見をいただくため、事務局から簡潔に説明をお願いします。

(1) 基本計画（素案）について

○事務局（熊本県）

- ・資料1「U-Xプロジェクト基本計画（素案）のポイント」、資料2「ハード検討（機能構成・整備手法）」、資料3「基本計画における重要な取組のロードマップ（案）」に基づき、説明。

(2) 意見交換

○木村座長

- ・これまでの説明に対し、出席名簿順で皆様からご意見等をいただきたい。
- ・基本計画は基本構想のうち特に重要な取組を示すのが趣旨であるが、現在の素案についてお気づきの点、あるいは日頃から感じている部分からみて強化すべき点、具体化すべき点があれば、ご意見をいただきたい。

○池野委員

- ・昨年度から委員として参加しているが、資料がきれいにまとめられており感動した。
- ・1つ質問だが、ハコについては、場所はどこに作るのか。

○事務局（熊本県）

- ・基本構想でお示しした通り、空港周辺のテクノロジーサーチパーク周辺を想定しているが、具体的な場所については引き続き検討してまいりたい。

○池野委員

- ・ハコは、イノベティブな人が集まる空間を作って、交わり、意図せぬ新しい発想が生まれ、行動に移していく始まりの場。
- ・スタンフォードでは、医学と工学が仲良くやるためにハコをつくる段階で、まずはレストランをつくらうとなった。腹が減ったら誰でも食事をする。24時間365日まではいかないが、少なくとも昼間は飲食できるようにしたところ、それがトップクラスのセンターへと成長した。人をいかに引き寄せるかという観点から、食や面白いことが起こっていることが重要。
- ・イノベーションを持続的に創出するためには、若いイノベーターの方々が独創的なアイデアを出してスタートアップをつくっていることが多いが、熊本ではサイエンス、ディープテックのイノベーションを起こそうとしているため、渋谷で起こっているものとは違う。
- ・そのため、サイエンスがわかる大学生や教授をいかに集めるかが重要となる。自らも医者

だが、医者は医者のことしか知らないし、交わらないことをよしとする文化を打ち破らないと新しいアイデアは出てこない。

- ・熊本の課題は日本の課題であり、ひいては世界の課題。それをいかに解決していくかを若い時期から植え付けていくことが重要。
- ・最終的にはスマートシティやスーパーシティにもっていくのは行政の向かうべき方向だが、まずはデジタル技術を用いて、特に医療・医業のデータよりも前の段階の生活習慣のデータ、つまり、予防医療のデータのほうが、今後、市場は大きくなっていく可能性が高い。
- ・これをウェルネスとも呼ぶが、病気になる前の段階において、いかにデータを収集していくか。健康なときのデータから、それが悪化して病院にかかるまでのデータはなかなか蓄積がない。医師会や大学も含めて、健診を含めたデータ収集から始めると、よりユニークなものができると思う。

○川畑委員

- ・非常にフルスペックで至れり尽くせりの内容と感じた。ハード面とソフト面がうまくかみ合っている印象。規制緩和は民間だけでは働きかけが難しいため、県が入ってくれるのは有難い。また、フィールドの提供もプレーヤーにとっては有難い。
- ・人材の集積が本プロジェクトの成功の第一歩。ライフサイエンス分野における起業家、事業家を惹きつける目玉のようなものが必要。
- ・いろんな自治体と同じようなことをしているなかで、熊本がアピールできる部分を明確化して人を呼び込むことが大事。インフルエンサーについても、お金をかけてでも、一本釣りでもいいので、良い方を連れてきて広げていくことができればよい。
- ・全体の計画だけだと、いろんな関係者が出てくるが、誰が対応するのか、対応する時期、KPIのようなものがあると、よりわかりやすいのではないか。
- ・スケジュール（ロードマップ）について、全体的に2021年から2030年まで引いているが、基本構想では短中期と中長期の2つの視点があった。そのあたりを含めたタイムスケジュールがもう少しブレークダウンされるとより分かりやすくなるのではないか。

○慶児委員

- ・プレーヤーについては、尖った分野でよいのか。ライフサイエンスという観点でいうと、工学部系と医学部系の人と同じ建物で仕事していれば、簡単に情報交換できる仕組みをつくらないか、といった会話ができる。例えば、業界と業界を結びつけるなどして、熊本はこれをやるというのを絞ったほうがよい。
- ・ハコの中でも、ゼミなどフリーにディスカッションができる場を設けるなど、絞ってやったほうがよいのではないか。
- ・総花的にやると、なんとなくで終わってしまう。プレーヤーが集まって、そこで自分たちの生活環境を変えていくような提案が生まれるのがよいのではないか。

○後藤委員

- ・まずは本プロジェクト自体に敬意を表したい。国等の既存制度の活用ではなく、自ら場を創ろうとしているところが素晴らしい。それもまた、九州の重心である熊本が手を挙げるのがよい。ぜひ持続的にやっていただきたい。
- ・予算のある間だけで終わらないよう、経済的な面でのエコシステムが大事。収支の確保といった狭い意味で結果を求めるようにならないようにしていただきたい。何年間でリターンがあったかではなく、農業でいえば、土を育てる事業と思って取り組んでほしい。
- ・社会的課題対応の分野では、投資に対するリターンは、狭い意味での経済的利益ではなく、課題を解決すること、という考えもある。広い意味でのリターンを得るエコシステムであればよい。3年経ったが現在の収支はどうなっている、などとはやらないこと。
- ・プロジェクトの対象については、県外人材が県外企業を支援することも許容してほしい。
- ・ハコは、支障がない限り民間にオープンにやらせるほうがよい。一定の期限内に何かができるのならプロセスは任せる。官が主体でやると、税金を使っている、管理の責任は、と手取り足取りの介入になる。県が関与しすぎなくてもちゃんと進むこと、それには管理の方法はより高度なものが必要。あらかじめ工夫して作りこんでおく必要がある。
- ・対象とする事業の領域は、この基本計画では方法論だけ書いてあるが、むしろそれでよい。何をやるかは模索しながら決めていくのが社会課題解決。これから検討して一定の方向性は示し、あとは進捗とともに方向を探る。また、方向からずれても寛容に認めるとよい。
- ・インフルエンサーは、高額を出せば来るというものではない。よい素材や人が集まっていると、そこで腕を奮いたいと思える。採用する際には、何をするか自分で設定・宣言してもらい、1年、2年過ぎて言ったことができているならば、残ってもらってはどうか。その際、途中のやり方は任せたいほうが、管理側もインフルエンサー側もやりやすい。お金よりも、好きなことをやらせてもらえるという方が、人材が集まるのではないか。

○新原委員

- ・前職では日本橋でライフサイエンスイノベーションハブを創る仕事をやっていたので、何かお話ができればと思う。
- ・空港側としては、本プロジェクトへの期待感が高い。新しいターミナルを作るだけでなく、産業とともに仕掛けていかないと人は集まらない。それも観光だけではなく新産業も必要。いろんな企業や研究者が集まれば、熊本以外との行き来も盛んになり、その分空港が活性化すると考えている。
- ・前職でL i n k - Jという社団法人を作った際には、「集まる」、「つながる」、「育つ」、「羽ばたく」の4段階において、三井不動産やL I N K - Jで支援できるようにシステムを作ることに取り組んでいた。
- ・ライフサイエンスはIT系ベンチャーとは違い、羽ばたくまでの死の谷が長い。ワクチンの治験もしかりで、研究から製品化、収益を得るまでのタームが長いのが特徴であり、よい研究をしていても続かない。そのためにはエンジェル投資家などが支援をしていくことが必要。その点に関しては、三井不動産が関与して支援することで、うまく回るようになってきている。

- ・スピード感をもってやらないと、速いサイクルで物事はどんどん変わっていく。ありものでよいので、どんどん立ち上げていくことが重要。人が集まる場所としてのラボを作ったり、今あるビルでも多少改装して、ガンガン人を集めていくと、そこから何かが生まれて、派生的にまた生まれていく。新しいビルが建つのを待っていると、世の中から取り残され、陳腐化する。
- ・Link-Jを作った際には、「Why 日本橋？」を常に問いかけていた。なぜ日本橋にライフサイエンスの研究者が集まってくるのかを考えていた。先ほどレストランの話もあったが、日本橋は寿司屋、うなぎ屋、蕎麦屋などが多数あり、食に関してはより取り見取りで、実はベンチャーからもいろんな日本酒が飲めて良い、といった反応があった。胃袋をつかむのは重要。
- ・本プロジェクトでも「Why 熊本？」を問う必要がある。熊本でなければならない理由、それが水なのか、食なのか、環境なのか、考えていく必要がある。
- ・大学については、学際がなくなりつつある。日本橋に最初に入居したのは、大阪大学であり、工学部と理学部の連携拠点を最初にも作ってもらった。医学部と工学部も境目がなくなってきているが、それでも壁があるため、あえて大阪ではなく東京に作ったという経緯がある。その場所からいろんなことが生まれてきつつある。
- ・熊本でも今までの学際にとらわれないハブを創っていくことで、いろんなものがミックスされて面白いものができてくるのではないかと。熊大には農学部がないが、ライフサイエンスではバイオで近い分野なので、他の大学と連携しながらそういう動きができればよい。

○田中委員

- ・日本橋は素敵な街。あのような形で人が行きたくなる、集いたくなる必要がある。熊本にもいろんな魅力があるので、期待している。
- ・プロジェクト名がかっこよすぎると、ともすれば他人事になってしまいがちであるため、しっかりと県民も関わっていると認識してもらうことが大事。
- ・工業連合会では300余の会員企業があり、半導体産業、自動車産業が中心となっているが、近頃はもともと関わっていなかった事業者がこれらの産業に参画し、生産力の向上に関与している。それが結果として県民の豊かさにもつながっている。
- ・ライフサイエンスは幅が狭いように感じられるかもしれないが、医学や薬学だけでなく、農業や製造業などいろんなところに波及していく可能性がある。UXプロジェクトの成功が県民の幸せに資するということを打ち出すべき。
- ・製造業は目まぐるしいスピードで動いているが、見えないゴールに向かって、アジャイル型でいろんなことをやっている。そうした中で、ダメなところはすぐに撤退し、伸びそうなところを更に成長させるなどしている。
- ・熊本というローカルに限定しないほうがよい。地域と地域の連携があってもよい。例えば、鳥取県ではこんなことをやっているというのがあれば、重なるところはお互いうまくやしましょう、でもよい。必ずしも熊本という枠にとらわれない意識をもっていきたい。

○富澤委員

- ・本プロジェクトは今後の熊本県の将来を支えるものとして期待している。
- ・成功のためには、若いイノベーターが集まって、ワクワクして、にぎやかにしてほしい。
- ・ハコについては、オープンイノベーションセンターとしての出会いの場であるため、若い人が集まりたいと思える場所が空港周辺にあるとよい。
- ・これを支えるチーム熊本については、県は全面に出ずに産学金が主体で連携して、官は大黒柱のように見守って、自由にやらせる座組みがよい。
- ・日本全国にはない、若い人に楽しいと思わせる要素があれば、人口問題も改善できるのではないか。
- ・確かに熊本大学には農学部はない。ただ、新しいセンターを作って、農業の研究を医学部がやっているなど、垣根はなくなっている。新しい産業が生まれるのではないかと期待している。
- ・データについてはKMN（熊本メディカルネットワーク）についてはっきりと書かれているが、熊本大学としては県医師会および県と連携して、データを使えるような体制としたい。またその際、カルテの情報だけでなく、健診データや子供のころからのデータを集めようとしているところであり、大学としてもしっかりと進めていきたい。

○富山委員

- ・トヨタのウーブンシティのように、これまでなかったものがボンと出てくるような革新的なものにつながればという期待と、テクノリサーチパークが候補地であれば、かつてあったところを新しく生まれ変わらせるのはよい。
- ・当時はベンチャーが集うことはなく、隣の入居企業とけん制し合いながら利用していた。今回はそういうことがないように、食堂のような集う場が重要。
- ・ハコは早めに完成させていくことが必要。少し年表が後ろにずれているが、座って話す空間を早めに作って、ここに集まろうという場になればよい。
- ・集まってくる企業に対して、熊本の医療や農業の課題をこちらから与えて、解決できるスキームは魅力的。人吉のコワーキングスペースでは、課題がいっぱいあったものの、これまで行政や民間がかなり取りこぼしていた。それを今、地域のスキームに溶け込ませようとしている。
- ・高校球児があこがれの球場で試合をしたいと思うように、そこに行くことがステータスとなる、そこで働くことがステータスという場になってほしい。スローガンもそうした光となる見せ方ができればよい。
- ・ウェルネスという話があったが、実証フィールドをつくる際には、そのエリアにいるプレーヤーたちも被験者としてビーコンをつけるなどしてはどうか。また、宿泊施設があるならば、酒などの飲食環境は必要。
- ・プレーヤーについては、会津若松の事例をみるとエコシステムがしっかりできている。地域課題を解決するためにIT企業が集積して、交通・防災などのスキームではこうやろうという部分は参考になる。

- ・補助金ではなく、何かしらの形で行政の支援があるのは大事。サステナブルに支援が出るものを企業側は求めている。お金でなくとも、一緒に営業回ります、実証フィールドを紹介し、データを提供します、などお金ではない価値に目を向けていくとよい。
- ・県内の各自治体には手を挙げてもらって、その対価としてデータや素材を提供して、連携できる自治体を巻き込んでいくと応援される体制になるのではないかな。
- ・自分自身もベンチャーとして、とにかく早く、失敗することも辞さずに取り組んでいる。その際、いかに修正できるかが重要になってくる。とにかくやってみる。イベントもやってみる。そこに人が集まらなければ、軌道修正していくことが重要。

○吉本委員

- ・資料が非常にわかりやすくまとまっていて大変ありがたい。
- ・人が集まるしかけについては、レストランといった食に加えて、データ、情報が重要。世界で何が起きているか。海外の方とオンラインでもよいのでつながり、鮮度の高い情報を得られる場がどれだけあるかが重要と考えている。
- ・カーボンニュートラルに対する中国のスタンスなど、今リアルな中国はどうか、自分自身、海外のカウンターパートに直接聞いたりしている。まずはオンラインからコミュニティを形成して、オンサイトにつなげていく。そっちはどうなっているの、という生の声を聴くコミュニティがあれば、それが魅力になって熊本が注目されてくるのではないかな。
- ・アジャイルという話があったが、スケジュールを見て、こんなにのんびりでよいのかと感じた。来年どうなるかわからないようなスピードで世の中は動いている。欧米では民間主導で宇宙旅行に行き、中国はデジタル人民元の実証実験を始めるなどしている。世界中から大きな変革の波が押し寄せるなかで、産業競争力をいかに担保していくか、県民のハピネスをいかに実現していくかを考える必要がある。
- ・座組みとしては民間主導で動くべき。20代、30代、40代の感性を取り入れる必要がある。行政は組織的に重責を担うポストに若手はつけないが、民間はそれができる。主導権は民間に渡して、行政は本気のサポートに徹するに尽きる。
- ・実証フィールドについても要件定義している余裕はない。どういう規制が障壁になっているか、何を变えていかないといけないかをハンズオンでやっていかないといけない。まずは今やりたいことに対して、熊本を実証の場として提供できるかを同時にやっていかないといけない。
- ・行政の本気のサポートは簡単ではなく、頻繁な人事異動では対応が難しいだろう。できれば特別職を作って、行政の顔として回していける人事制度をつくるなどできれば、他ではできないことが実現していくのではないかな。
- ・デジタルと無縁ではやっていけない。医療においても、今やすべての医療機器がインストールベースになってきており、従来の医療機器とは違ってきている。世の中は、ものすごいスピードで常に変化しているので、世界中の新しい情報を持ってくるような仕組みがあれば、自ずと人は集まってくるのではないかな。

○木村座長

- ・スケジュールのスピード感について指摘が多かったが、事務局から補足があればお願いしたい。

○事務局（熊本県）

- ・スピード感のご指摘の通り重要と考えている。確かに保守的なロードマップになっている面はあり、実証実験フィールドの文脈も吉本委員のおっしゃる通り。まずは関係者へヒアリングを実施して、規制緩和できることはどんどんやっていきたいと考えている。
- ・ハコについても、早めに整備したほうがよいとのご意見をいただいた。例えば、仮設の場を早々にでも設けて、とにかく集まる場をつくるのも一つのアイデアだと感じたため、検討して進めていきたい。
- ・いずれにせよ、スピード感を意識してロードマップを引き直したうえで、次回会議においてお示ししたい。

○木村座長

- ・ハコについて、運営面における自由度という観点から、官と民の関係について田中委員に伺いたい。

○田中委員

- ・ハコについては、民間が好き放題言っているものでもないと思うが、イノベーティブな部分は民間では幅広く情報やネットワークがある。予定調和的なものを示すのではなく、現場に渡したほうが新しいことが生まれるのではないか。

○木村座長

- ・人を集めるためにどういう分野に、という議論になりがちだが、最初の種をどのようにまけばよいか、後藤委員にご意見を伺いたい。

○後藤委員

- ・英米はダメとされていることに当たらなければやってよい、日本ではやってよいかお上にお伺いを立てる。これは風土でもあり、規制する法律の仕組みが背景にある。
- ・人材を集める際には、リーダー、活動する人などと輪切りでやってはいけない。対象分野も、あらかじめ緻密に論理的に割り出して決める、などでないほうがよい。やりながらもがく。最初に目指したことと、結果的にやったことが異なっていてよい。
- ・例えば、何年後にこういうことを仕上げるということだけ契約しておき、途中段階での報告を求めないのも選択肢。登山でいうなら、登山ルートを変更してもよいし、経験と学びの結果であるなら、違う山に登ることにしてもよい。
- ・リーダーになる人材には、何年後に何を達成するかを宣言してもらい、賑わいをつくるのか、事業をするのか、それに必要な手段として人を動員するのか、など、それぞれ自分で

トータルの計画を描いていただくとよい。与えられた問題を上手に解くだけでなく、問題意識、課題の設定、総合的な実現力のある人。

- ・他県の事業者を支援すると地元から文句を言われることがあるが、ふたを開けてみれば県外の人ばかりだった、でもよいのでは。リーダーや支援人材も、地元出身で地元詳しい人というのもよいが、知らない人の方が気軽に相談できる面もある。そこでも、外の人材を招く意味がある。

○木村座長

- ・最後に各委員からこれまでの議論を受けて一言ずついただきたい。

○富澤委員

- ・学際がないのは事実。文理の垣根がないところでイノベーションが生まれる。
- ・学長が変わって、ある意味自由にやっているのは魅力的だと思う。

○池野委員

- ・吉本委員から指摘のあった海外とつながれることはマストハブ。海外で活躍している人と触れるだけでも視野は広がる。日本には和僑という人がいて、海外にいて行動を移している人がいる。
- ・オール熊本市とかではなく、オール地球という概念で物事を考えないとこれからは難しい。
- ・熊本大学等の学生に英語力があれば英語で会話するのがよいのではないか。

○川畑委員

- ・スケジュールについては、やらなければいけないことがたくさん並んでいるが、なるべく早く取り掛かるなら、優先順位付けが大事なのではないか。

○慶児委員

- ・インフルエンサーとなる人が来て、フリーオフィスのような形にすべき。常駐してはいけない。例えば、このオフィスに入ると、シーズとニーズが記載されていて、そこに行けば面白い話をして帰れる、今日は誰々が来ているはずだから行きたい、となるとよい。あるいは、そこに若い大学教授が来て、話を聞けるなどもよい。居心地のいいホテルやレストランがあって、仕事はフリーオフィスでやって滞在するなどがよいのではないか。

○新原委員

- ・空港はぜひ使ってもらいたい。例えば、ロビーに来る人を対象に何かをやるなど、どんどん空港の中でもやっていくと地域とも仲良くなれる。
- ・空港周辺の県有地と合わせるとかなりの資産があるので、そこを活用できれば、面白い仕掛けができるのではないか。こういうのがあったらいいなというのがあれば、空港の土地があるので作ってみるなど。

- ・また、いろんなものをつなぐために、バスなどのモビリティを水素で動かすなどして、そのうえで、地域の人も使えれば、交流も生まれる。こうしたモビリティも検討していくと面白いのではないか。

○木村座長

- ・第2回策定会議に向けて、再度事務局で整理するので、またお時間をいただきたい。
- ・それでは意見交換はこれまでとし、事務局にお返しする。

5. 閉会

○事務局（熊本県）

- ・活発な議論に感謝申し上げる。
- ・スピードアップを図ることに加え、事業者からもデータを取得したいなどの話を受けている。小さいステップではあるが、より一層広げていきたい。
- ・次回の開催は9月頃を予定している。次回のご指摘のあった具体的なタイムスケジュールについてもお示ししたい。日程については改めてご案内する。
- ・これをもって、本日の策定会議を終了とする。

(以 上)